

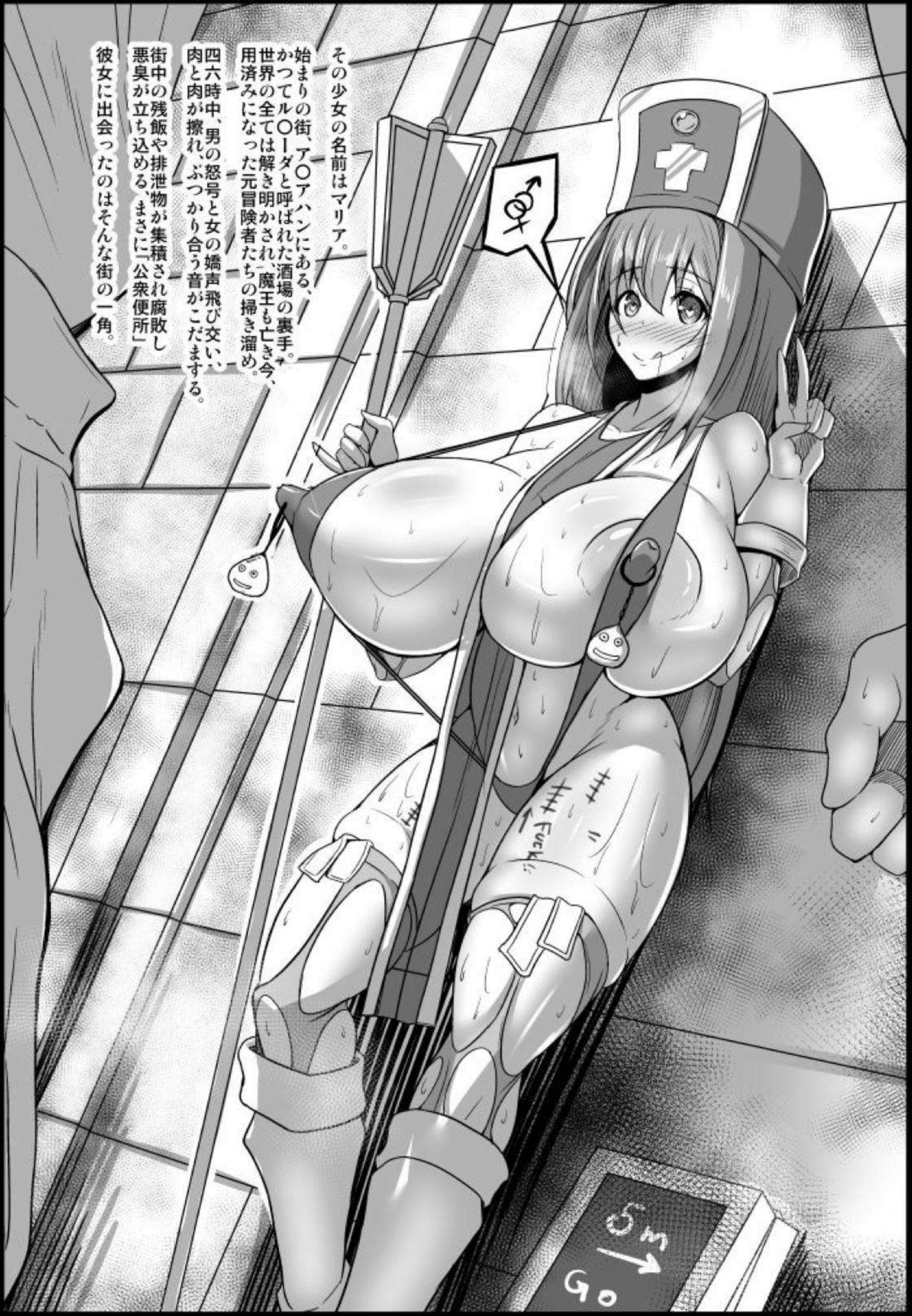
その少女の名前はマリア。

始まりの街、ア○アハンにある、  
かつてル○ーダと呼ばれた酒場の裏手。  
世界の全ては解き明かされ、魔王も亡き今、  
用済みになった元冒険者たちの掃き溜め。

四六時中、男の怒号と女の嬌声飛び交い、  
肉と肉が擦れ、ぶつかり合う音がこだまする。

街中の残飯や排泄物が集積され腐敗し  
悪臭が立ち込める、まさに「公衆便所」

彼女に出会ったのはそんな街の一角。



Public  
toilet

「はやくはやく  
こっちですよお♡」

「沢山サービス  
しちゃいます♡」

若く瑞々しい声  
少女のような  
あどけない童顔

対して不釣り合いに  
下品に育ち、熟しきった  
二つの乳房  
そして臀部…

その様から  
正確な所は判らないが、  
恐らく十代半ば  
多めに見積もって後半くらいか

自分の娘と大して  
変わらないような少女に  
一目で虜になった俺は  
「個室」に通された。



過去に何度か  
利用したことがあるが  
「公衆便所」の「個室」は  
どこも大差はない。

絶妙に居心地の悪い手狭さで  
窓や灯りの類は一切なく蒸し暑く  
そこら中にこびりついた残飯や  
排泄物が発する悪臭で眩暈がする。

しかし、俺はそんな  
劣悪な環境よりも  
目の前の少女の  
豹変ぶりに驚かされた。

先程までのあどけなさから一変、  
男を惑わす牝の貌  
卑猥で妖艶な表情を浮かべ、  
こちらの様子を伺っている。

平静を装ってはいたが既に限界である。  
今すぐこの少女をハメ倒じたい。  
本来ならば病気の有無、金額の確認やら  
最低限の確認は行うが今回は無理だ。

俺は急いでスポンをすり降ろした。  
いきり立ってたらんぼを曝け出した。



少女の舌舐めずりが  
開始のゴング

間髪入れずにかの  
襲い掛かるので  
ような勢いで  
彼女はむしやぶり  
ついて来た

その様子は  
まるでモンスター

少女のような純粹さや、  
娼婦のような妖艶さの  
欠片もない  
ただただみっともなく  
ちんぽを貪る豚そのもの

龟头に竿は勿論、  
尿道にタマ袋、  
果てはケツ穴まで…  
下半身の隅々まで  
舐めまわし子種を催促する。

不覚にも  
もの数分で  
ヌかれてしまった。

このままでは男の活券に傷がつく。この便女に立場とねばらねば、判らせてやらねばいっもうものを

畳みかけるような抜きフェラを力でねじ伏せ、のど奥目掛けてちんぽを叩き込んでやった。口腔から喉奥へ食道を何度も何度も絶え間なく……

泣いていて悦んでいて、嘔吐を繰り返しているのか。知ったことではないが

ちんぽで嗚咽を押し殺し、ちんぽで吐しゃ物を押し返す。

年端も行かない少女を普通のセックスでは到底味わえない高揚感

幾度となく繰り返す失神と蘇生に少女の脳髓は焼き切れ、更なる快楽を求めちんぽをしゃぶり、マスコを掻き筆る

男と便女。  
壮絶な意地と意地のぶつかり合いを  
制したのは疑う余地もなく俺だった。

先程まで膝元で苦痛と快楽に  
のた打ち回っていた少女が  
こちらを見つめていることに気づく

先程までのケダモノの様な  
眼差しから一変。  
その瞳はまるで恋する乙女。

奉仕の内容も一変。  
貪り付くような  
力任せの強烈パキュームは成りを潜め  
緩急を織り交ぜ、尿道、龟头、カリ首、竿と  
余すことなく舐め回し  
玉袋の皺も一つ一つ丹念にしゃぶり尽くす。

勿論、歳不相応に肥大した乳房  
その存在も忘れてはいない  
数多の男たちに揉み倒され  
適度に弾力が失われたソレで  
ちんぽを包みしめつけ、しごき上げる

フェラチオとバイズリの  
欲張りセット。  
奉仕の精神に満ち溢れた  
ブレイに舌鼓を打つ

ようやく誰がご主人様か  
理解してくれたようだ。



俺は夢中で  
ロマンコを穿り倒し  
少女は夢中で  
ちんぽを貪り尽くす

スタートから小一時間程経過

少女のテクニックを  
余すことなく堪能すると  
腹一杯のサーメンをふちまけ  
労をねぎらう

吐しゃ物と精液の混合物を  
全身に浴び、嘔り、  
咀嚼し、嚥下する。

ゆっくりと…  
愛おしそうに…  
じゅっくりと…

なんとも  
美味そうに味わう。

驚くことにこの少女  
男の精液と排泄物を  
主食にじているらしい。  
今のが本日初めての食事。

先程までの化け物の様な『食欲』は  
空きっ腹に新鮮なちんぽを  
目の当たりにした為だったようだ

色々と合点がいった所で  
少し落ち着く

ここまでノンストップ、  
流石に体が重い  
こちらで少し休憩を挟みたいものだ。



プレイ開始から  
時間で十数連発。

休むことなく  
腰を振り続けたせいで  
本番前に体は悲鳴を  
上げていた。

しかし、  
女はそれを許さない。

ハッスルダンス

それは目にしたものの  
全ての疲れや傷を癒す  
特技の一つ。

本来、芸事を極めた踊り

だがそれとは違う……

愛くるしくも下卑た童顔、  
歳にそぐわぬほど  
実り、熟し、熱れきった肉体。

激しくも艶めかしい腰つきに、  
肉壺を掻き寄せる手  
体中にまとわりついた  
体液と排泄物が放つ刺激臭

それら全てを駆使し  
死に物狂いで男を蠢感する。  
これはそう……  
ただのおねだり

行為中にちんぽ便女に許された  
たった二つの意思表示だった



使いだん  
ガバにち  
い思つて  
い意味で  
意味で裏  
切られた

彼女は公衆便所の肉便器  
一年三六五日二日二十四時間  
まんほでほしくり倒された  
まんこは腫れ上がりが  
まるで処女のように  
しめつけを実現していた



食い千切らんばかりに  
ちんほをしめあげてくる  
上の口も悪くは無かつたが  
こっちは格別だ

あまりの抵抗に手間取っていると  
少女がこちらを挑発してきた

まるでちんほの使い方を  
教えてやるうかと言わんばかりの  
小馬鹿にした表情

フツンと  
自分の中で何かか  
切れる音が聞こえた



ちんぽッ♡  
ちんぽッ♡

ちんぽをちんぽッ♡  
能のない便女のくせに  
調子に乗りやがって!

ちんぽッ♡  
うるせえッッ!  
でめえの商売道具  
ぶち壊されてえッ♡  
ちんぽおおおッ♡



怒りを込めた罵声と間拔けな嬌声  
ヒトと便女ちんぽとマンコ、  
意地と意地のぶつかり合い

肉と肉が叩き付け合う打撃音と  
結合部から溢れ出す水音を背景に

それはさながら  
モンスターの交尾

おッ♡おんほッ♡  
んぽおおおッ♡

♡

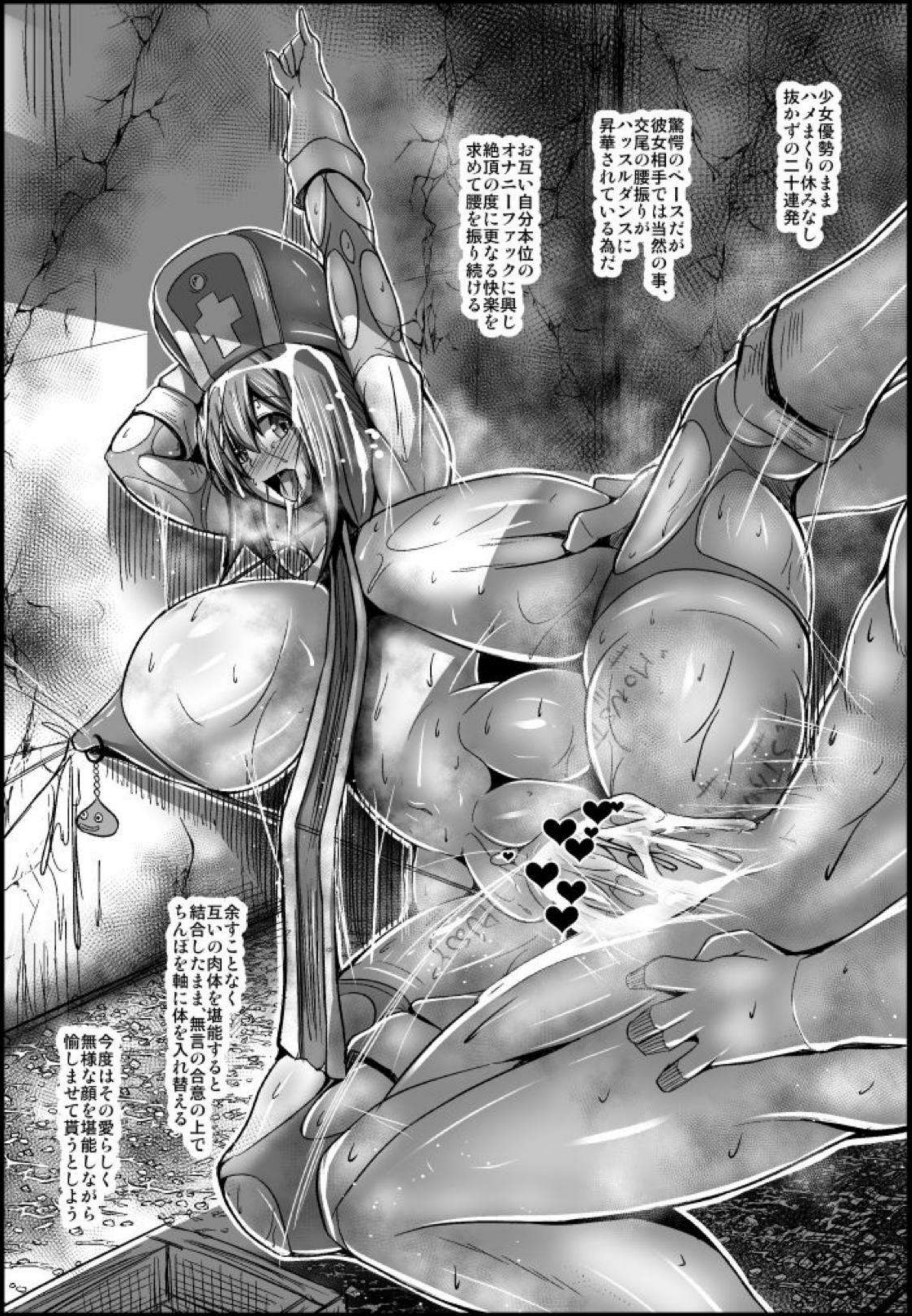
少女優勢のまま  
ハメまくり休みなし  
抜かずの二十連発

驚愕のペースだが  
彼女相手では当然の事、  
交尾の腰振りが  
ハッスルダンスに  
昇華されているのだ

お互い自分本位の  
オナニーファックに興じ  
絶頂の度に更なる快楽を  
求めて腰を振り続ける

余すことなく  
互いの肉体を堪能すると  
結合したまま、無言の合意の上で  
ちんぽを軸に体を入れ替える

今度はその愛らしく  
無様な顔を堪能しながら  
愉しませて貰うでしょう



体位を入れ替えてから三十分  
たったそれだけの時間が  
酷く長く感じた

先程までから一変。  
まるでお互い  
探し合うかのような  
ノーマルセックス

ちんぽが萎えないように  
少女のマンコで  
甘噛みを繰り返して、  
時折締め上げる

マンコが乾かぬように  
子宮を優しくノックし  
膣壁一つ一つに雁首で爪を立てる

ゆっくりと…ゆっくりと…  
互いの官能を高め合う

次はタダでは済まさない

この後迎えるクライマックスに向けて  
相手の弱点を掌握し  
最高のコンディションを整える



口火を切ったのは男の方だった

覆いかぶさる便所女を跳ね除け  
組み伏せのしかかる

怒涛のくい打ちピストン  
それはセックスの名を借りた暴力

ちんぽで直接子宮を穿り返し  
肉壺の最奥を殴りつける

地獄のような激痛と極上の快楽が  
少女の脳髓を焼き切っていく

一突きごとに掻き出された  
精液と愛液の混合物が  
結合部から溢れ出し

その臭いが鼻孔を刺激して  
激しさは加速度的に増していく

最早、少女には毛ほどの余裕もない  
先程まで口にしていた  
嬌声は成りを潜め  
カエルが潰れたような鳴き声が  
公衆便所にこだまする

